

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・商店街内の空き店舗に出店の動きがある。業種等は未定であるが、出店の動きが出てきただけでも明るさを感じる。
		百貨店（営業担当）	・天神地区の百貨店売上高は、前年に比べ若干増加しており、高額品に関しても売上は落ちていない。個人消費の落ち込みは、各小売業の工夫や努力により、明暗はあるものの、緩やかに回復に向かう。天候不順などの影響のみが不安材料である。
		百貨店（販売促進担当）	・今後大きなトピックが無いため、消費が大きく伸びるとは考えられない。しかし、九州新幹線開業のため広域マーケットが動く可能性がある。九州の遠方からの福岡への来客は今後も増える。
		スーパー（店長）	・価格志向から変わってきて、いいもの、付加価値のあるもの、今までになかったもの等を買う傾向がある。具体的にはブランドもののハンドバック、時計、陶器、デジタル家電、食品でも少々高くても安心安全なもの、国産のもの等の動きが良い。
		スーパー（企画担当）	・店舗改装オープンやショッピングパーク内の外食店舗の拡大、また、店舗近隣の道路橋梁工事等による交通アクセスの改善等によって、更なる集客効果が期待できる。
		コンビニ（エリア担当）	・少しずつではあるが、客の購意欲が増している。キャンペーン等もかなり実施しており、売上増が見込める。
		その他専門店〔医薬品〕（従業員）	・競争は厳しいが、客数は上昇傾向にある。
		旅行代理店（従業員）	・海外旅行は、一部の国を除いて5月の連休はほぼ満席の状態である。国内も沖縄方面の問い合わせが多く、何事もなければ前年を大きく上回る。
		競輪場（職員）	・競輪場で5月からナイター競技を始めるが、相乗効果で競輪場もあわせて来客数が増えるとみられる。
		設計事務所（所長）	・日向市、宮崎市、都城市等県内の大きな都市では、住宅の着工件数が増えており、大工が足りない状況である。当社が立地する延岡市も良くなる。
	設計事務所（所長）	・仕事自体は少しずつ増えている。全体的な景気としては良くなったり悪くなったりする状態が続いていくが、急激に良くなることはない。	
	住宅販売会社（従業員）	・アパートの契約が増えている。土地活用志向から、今後固定資産の流動化が期待される。	
	変わらない	百貨店（営業担当）	・「 unnecessary商品は買わない。必要な数しか買わない。買う前にもう一度考える。」という、買物の慎重さが依然として続いている。
		百貨店（営業担当）	・食料品部門は底堅い動きであるが、その他の部門が総じて苦戦している。
		百貨店（営業担当）	・現在の来客状況をみると単発でもイベント等を行わない限り前年を上回るとは難しい。特に昨年はゴールデンウィークの売上が大きかったため、その分今年度は苦戦する。7日間の長期休暇前に売上を確保しなければ、小売関係は厳しい。
		百貨店（売場担当）	・総額表示方式の影響が懸念される。また、福岡市の吸引力が強まったことで、どれくらい影響を受けるのか、予断を許さない状況である。
		百貨店（業務担当）	・衣料品の動向が、季節の変わり目のカギを握っているが、春物の立ち上がりの状況からは、勢いが感じられない。
		スーパー（店長）	・総額表示の影響で、半年間くらいは消費が悪くなる。
		スーパー（店長）	・総額表示方式への移行から1か月弱くらいは若干の影響があるが、消費動向自体は低迷のまま変わらない。
スーパー（店長）		・生活の先行き不安から、無駄を省こうとする姿勢が買物に表れている。皆年金問題を真剣に考えており、買物の動きを鈍くしている。	
スーパー（総務担当）		・食料品の売上、来店客数の動きは昨年並みに戻りつつあるが、衣料品、住居用品の売上不振が今後も継続していく。	
衣料品専門店（店員）	・天神地区への集客は、九州新幹線の開業もあり、今後も増える。しかし、客数は増えても皆が買物をするわけではないため、あまり期待はできない。		

	家電量販店（経営者）	・御用聞きに回っても、今度はこれが欲しいという声どころか、節約の様子しかうかがえない。	
	家電量販店（企画担当）	・全体的に単価が下がっていることに加え、販売量、来客が少ないという状況が続いており、予想よりも悪い状況で推移している。高い商品が売れず、安い商品しか売れない。	
	高級レストラン（経営者）	・歓送迎会が今年が多いということで明るい兆しが見えてきたが、先行きは不透明である。	
	タクシー運転手	・都会ではかなり懐具合が良くなっているようで、長崎に来る観光客が、以前より多く金を落としている。一方、修学旅行に関しては前年の2～3割くらい減っており、総合すると横ばいである。	
	テーマパーク（職員）	・期間が3～6月の春ステイプランを打ち出したが、ゴールデンウィーク明けの予約の動きが鈍い。各方面でこ入れ策の検討に入っている。	
	観光名所（職員）	・観光施設については、九州新幹線の部分開業のお陰で入園者はそこそこ増えるのではないかと懸念される。ただそれがいつまで続くのかが懸念される。鹿児島県の観光対策が功を奏すのかに懸かっている。ゴルフ場は、景気に変化がない状況では、ゴルフファターの数も恐らく変わらない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・九州新幹線が部分開業し、事業所を中心部から駅周辺にシフトする企業が増え、一時的ににぎわいを見せているが、福岡等都市部への消費流出が危惧されるため、今後は悪くなる。	
	百貨店（売場主任）	・1人当たりの買上単価の減少は、ここ数か月更に強まっており、店には来るがなかなか購買につながらない。この傾向はますます強くなる。	
	スーパー（店長）	・総額表示方式への移行により、かなり売行きが鈍くなる。食肉に関しても、ずっとこの流れで推移する。衣料品も春物衣料の動きが鈍く、夏物衣料にどう変わるかが問題である。住まい関連商品は特売商品しか売れない状況であり、客の買上げる目が厳しく買い控えがある。	
	コンビニ（販売促進担当）	・土日に店頭で販売をよく行うが、客の買物を見た感じでは、タイムサービスの時間帯に客が集中しており、他の時間帯は客の入りが悪い。4月から総額表示方式になるため、やや悪くなる。	
	家電量販店（店員）	・一般消費者は、生活レベルを落とさず少しでも安く買うことに苦心している。また、競合他社オープンも近く、今後も厳しい。	
	住関連専門店（経営者）	・大川市は家具の産地でいいものを安く買える町だったが、近年キズ物、安物のイメージに変わっている。まともな商品がなかなか売れず、商圏内でキズ物、アウトレット店への模様替えも最近見られる。	
悪くなる	百貨店（営業企画担当）	・市内への大型量販店の出店、福岡一極集中の拡大に加え、鳥栖市でのアウトレットモールのオープンなどもあり、競争が激化する。客数の減少傾向が続く。	
	衣料品専門店（店長）	・20km圏内に大型アウトレットモールがオープンし、土日休日の客が全くと言って良いほど無くなった。休日を中心にイベントを行ったが、客は来なかった。今後も厳しい状況が続く。	
企業動向関連	良くなる		
	やや良くなる	家具製造業（従業員）	・懸念材料であった総額表示方式による割高感も心配したほど無く、大した混乱もないまま過ぎる。広告宣伝等、前向きな投資もできるようになっている。
		建設業（総務担当）	・利益率の少ない大きな工事は少なくなったが、リフォーム等が増えてきた。利益率を改善し量を増やせば、今後は良くなる。
	輸送業（従業員）	・当社はまだ売上が前年を若干下回るが、同業者では前年実績を上回るどころが増えてきた。	
変わらない	農林水産業（経営者）	・鳥インフルエンザは季節的にみても今後終息の方向に向かう。しかし、この影響は6月まで続くと思われ、本格的な回復は最需期の夏になる。景気は変わらない。	
	食料品製造業（経営者）	・九州新幹線の部分開業により、鉄道の利用客は増加しているが、当社の業績に好影響を与えるまでには至っていない。今後も同様の展開と見込まれるため、現時点では、業績向上を期待できそうにない。	
	食料品製造業（専務）	・春になり人々の動きも活発になってくるが、行事・祭事を見ていると財布のひもは固く、金をなかなか落とさないのが現状である。すぐに景気が回復するとは思えない。	

		鉄鋼業（経営者）	・運送費、副資材価格は統制が続いているが、高騰が続いていた主原料価格が下げに転じている。他方、製品価格は着実に値上がりしており、採算の好転が期待できる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・景気が良くなり受注量は増えたが、その分材料費が上がっている。今後は不透明である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連、精密機械加工の業績は大手でも二極化しているが、全般的にはこのまま順調に推移する。液晶関係も現状のまま推移する。
		広告代理店（従業員）	・チラシの折込枚数・件数・売上金額のどれをとっても、伸びてゆく気配が感じられない。しばらくは現状のまま推移する。
		広告代理店（従業員）	・イベント、企画物による集客が少し増えており、ゴルフ、会員権相場も若干ではあるが上がり気味で明るい兆しが見えている。しかし、今後の見通しはまだ立たない。
	やや悪くなる	通信業（職員）	・折衝件数が少ない上に、4月人事での営業要員追加も見込めない。
	悪くなる		
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（総務担当）	・企業の採用に対するマインドの改善により求人数が増加しており、若干好転する。しかし、大きく正社員が増えるわけではなく、固定人件費の増加を抑え、人件費の流動化を進める傾向は今後も変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人数も動いており、地場もやや良くなっている。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数が4か月連続で減少し、新規求人数も15か月連続で増加している。有効求人倍率も、平成15年10月以降0.7%台で推移している。この傾向が今後も続く。
		職業安定所（職員）	・昨年の9月頃から有効求人倍率が0.7%台を超え、その傾向が5か月連続で続いている。この傾向が今後も続く。
		民間職業紹介機関（職員）	・現在の好調な業界もしくは勝ち組企業に対する求人は、今後も続くと思われる。基幹部部門の増員や、販売系、営業系に付随する求人が出てくるので、半年くらいのスパンで景気の向上は見られる。
		民間職業紹介機関（支店長）	・例年は新年度採用の求人が3月前半で出そろう、成約するが、今年はまだ求人数が増加している。デジタル家電・エレクトロニクス・自動車等の好調な業種では、4月以降もおう盛な労働力需要が期待できる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・今年6月に開店する大型商業施設での求人が1,000名を超える見込みであり、一部の地域で求人倍率が高まる。その影響で周辺企業の人材離れ現象による、補充を目的とした求人が活発になる見込みである。
やや悪くなる			
悪くなる	-	-	